

木質バイオマス発電事業について

市長見解

霧島市における木質バイオマス発電事業について、霧島木質発電株式会社を事業主体として、国の森林整備加速化・林業再生事業を活用して整備が進められ、本年6月に営業運転が開始された。出力は5,750キロワット毎時であり、年間一般家庭約1万世帯に相当する発電が見込まれている。木質バイオマス発電は、他の再生可能エネルギーと同様、二酸化炭素の増減に影響を与えない、クリーンなエネルギーだと言われている。霧島市には、太陽光、地熱、小水力などの再生可能エネルギー発電設備がすでに導入されており、今回の木質バイオマス発電所の本格稼働によって、私どもが目指しております再生可能エネルギー100%地産地消のまちづくりに大きく前進しているものとする。木質バイオマス発電事業は、従来未利用であった除間伐材や主伐端材などの林地残材をチップ等の燃料として利用するため、森林施業の活性化による森林整備が進み、森林の持つ公益的・多面的機能が向上し、鳥獣被害防止対策等周辺環境整備を図ることが可能となる。また、山林所有者・林業従事者の所得向上が図られ、発電所とチップ加工等の関連産業の創出により、新たな雇用の創出や地域活性化にも寄与するものであり、まさに霧島市ふるさと創生総合戦略に掲げる『「強い」農林水産業の育成、「稼ぐ」農林水産業の創造』の一助になっているものとする。

(質問1) 2月、都農町のグリーンバイオマスファクトリーのバイオマス発電所が稼働した。5メガワットの発電能力です。4月、日南市の王子製紙のバイオマス発電所が稼働した。25メガワットの発電能力です。11月、薩摩川内市の中越パルプのバイオマス発電所が稼働した。24メガワットの発電能力です。燃料の奪い合いが始まる可能性がある。霧島木質燃料の平成27年度の燃料種類別の調達量、市外、市内の比率、県外からの調達量、及び燃料調達補助金の交付状況を伺う。

(農林水産部長答弁) 平成27年度の燃料調達状況については、10月末時点で約3万5千トン、市内が約4割、市外が約5割、県外が約1割と聞く。平成27年10月末時点の安定調達支援事業補助金については、補助対象は約3万5千トン、補助金額は約6千8百万円です。補助対象数量については、昨年度の同じ時期と比較して約1.4倍となっていることから、順調に集材が進んでいるものとする。

(質問2) 霧島木質発電のパンフレットにはカーボンニュートラルの記載がある。木材は燃やすとCO2を出す。木材は建材として使うことでさらに長期に亘ってCO2を固定できる。薩摩ファインウッドで端材まで集成材として活用している現場を見学し、感銘を受けた。霧島木質燃料の燃料置場には木材のプロの目で見ても建材として十分活用できる物が含まれているとの見解を聞く。民々の木材取引であることを承知しながらも市はどのように思うか伺う。

(農林水産部長答弁) 「カーボンニュートラル」は環境化学の用語で、何かを生産するなど人為的活動を行った際に排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量であるという概念であり、代表的な例がバイオマス発電で、植物を燃焼させて排出される二酸化炭素の排出量とその植物が成長する過程で光合成を通じて吸収した二酸化炭素の量が同じであることから、一般的にこの表現が用いられている。なお、伐採された木材の利用につきましては、林業の専門家が適切に選別された上で、取引がなされているものとする。

(質問3) 霧島市内の畜産農家を用いる『のこくず』の値段が高騰しているようだ、実態を把握されてい

るか？ 木質発電の燃料調達の影響ではないかとの意見もある。この現状をどのように思うか、何らかの対応を考える予定はないかを問う。

(農林水産部長答弁) 市内の鋸くずを生産販売する業者に聞き取りを行ったところ、「家畜敷料については、その生産量は横ばいではあるが、価格については値上げしている販売業者もいる」とのことであった。畜産経営者にとって、安定した敷料の確保は、畜産経営上重要な課題であると認識いたしており、家畜敷料の確保については、今後とも情報収集に努めるとともに、県や生産者、農協等関係機関とも連携を図りながら、対応を検討し行く。

質問席でのQ&A

Q：燃料調達は昨年の 1.4 倍のペースであることは理解した。来年 3 月までに補助金を使い果たすのではないか、その時の対応は？

農林水産政策課長：1 億 200 万円の範囲内で今年度は執行する。燃料調達は木質燃料が実施することであり、予算を超える補助金を支払うことは無い。

Q：のこくずについて、生産状況は横ばいでありながら値が上がっている。のこくず価格の高騰は林業関係者には朗報であろうが、畜産業者には打撃になる。農政畜産課としての見解を問う。

農政畜産課長：畜産農家が取引している業者が 8 社ある。その中の 3 社が値上げをしている。畜産農家は値が上がって困っていると聞く。畜産農家は籾殻やバーク、一部では古紙やダンボールを粉碎したのを使ったりしているようだ。県、生産者、農協と連携を取りながら対策を検討したい。